

令和2年度 自己点検・自己評価結果 改善現状報告 (令和3年度 自己点検・自己評価 中間報告)

目次

(1)	教育理念・目標.....	1
(2)	学校運営.....	2
(3)	教育活動	
	介護福祉学科.....	3
	作業療法学科.....	4
	理学療法学科.....	6
	看護学科.....	8
	助産学科.....	10
	看護学科通信課程.....	11
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	13
(4)	学修成果	
	介護福祉学科.....	15
	作業療法学科.....	16
	理学療法学科.....	18
	看護学科.....	19
	助産学科.....	20
	看護学科通信課程.....	21
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	23
(5)	学生支援.....	24
(6)	教育環境.....	26
(7)	学生の受入れ募集.....	27
(8)	財務.....	28
(9)	法令等の遵守.....	29
(10)	社会貢献・地域貢献.....	30

令和2年度改善現状報告書（令和3年度中間報告）作成に際して

1. 評価担当

①教育理念・目的	校長
②学校運営	校長
③教育活動	各学科教務
④学修成果	各学科教務
⑤学生支援	学生サポートセンター
⑥教育環境	総務課
⑦学生の受入れ募集	広報部
⑧財務	経理課
⑨法令等の遵守	総務課
⑩社会貢献・地域貢献	学生サポートセンター

2. 評価数値の意味（令和2年度 自己点検・自己評価）

- 4 … 適切に対応している。
課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 … ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 … 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 … 全く対応をしておらず不適切。学校（学科）の方針から見直す必要がある。

(1) 教育理念・目標

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	学校の理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
2	学校における職業教育の特色は何か（理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか）	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	各学校の教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	4
5	各学校の教育目標、育成人材像は、学校等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【展望等】

各取り組みを、本校の教育理念・目標、使命、社会のニーズを確認する機会となるように導く。



【令和3年度に行っている取組等】

4年目に入った「多職種連携教育」の内容・運営体制・教職員の連携等を充実化と強化をしている。学校全体のビジョンと各科・各部署による具体的なビジョンを明確化し、その成果と課題を教職員全体が共有し合うことを目的に、各科・各部署の代表が中間期と最終期に振り返りの発表をする機会を設けている。

MO後援会（保護者会）の要望に応えるものとして、懇談会や個別相談会等を催し、学校からの方針説明、情報の提供と保護者からの相談に応じている。

「教育の質の向上」を目指し、教職員相互の「授業見学会」を全科において実施しはじめた。

最大のニーズである学生の国家試験合格のための対策として、各科の取組情報や対策の工夫を共有することを目的とした「国家試験対策委員会」が数回、開催されている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

コロナ禍にある中、例年より授業進度にやや遅れが出ている科目が一部あるものの、遠隔授業や分散登校、実習機会確保のための実習病院・施設との連携、そして学生の安全確保や身体的精神的ケアに注力しつつ「学生の学習機会の保障」に努めている。

この教育環境困難時にこそ、法人一体となって乗り越えていきたい。

(2) 学校運営

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開は適切になされているか	4
8	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【展望等】

体制やシステムの整備は充実してきている中で、職員一人ひとりが所属している部署だけでなく法人全体を俯瞰して運営に参加するという機運を醸成していく。

令和2年度はコロナ感染拡大の影響のために遠隔授業や分散登校もあり、その連絡や状況報告を文書やWeb媒体など様々な方法で学生・保護者に提示するよう努めた。

コロナ禍にあっても、学生・保護者・関係施設病院・地域にきめ細やかな誠意ある対応に心がけて、本校への信頼、期待、支援に繋げる。



【令和3年度に行っている取組等】

中期ビジョン「選ばれる学校になるための教育の質の向上と経営の好循環」のもと、ビジョン委員会にて、具体的試案を持ち寄り、定期的に審議されている。

学生及び教職員が学び働く場として、学生や教職員の要望に迅速に対応するため、またコンプライアンス体制確保のために、サイボウズをはじめとした学内システムや各会議体が構築されており、随時課題解決にあたっている。

また、本校への信頼を厚くすることを目指し、リアルタイムな情報公開に努めている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

コロナ禍ではあるが、国家試験は待ったなしであり、学校及び教職員は学生の授業時間と実習時間の確保、学習・実習内容の充実、学習環境整備に、例年以上に力を注がなければならないところである。各科・各部署では、中期ビジョンに基づきそれぞれのビジョンを実現させるための部門方針に沿って様々な取組を実施し、運営の修正と改善に努めており、教職員・学生の情報伝達、授業・実習の対応、ならびに保護者との連携は強化されている。

この体制を持続し、今の困難を克服したい。

(3) 教育活動 介護福祉学科

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

学外研修参加による先進的な知識・技術の修得

【改善方策等】

研修に関して、情報収集をする。
リモートによる参加を模索する。
感染が収まっている時期には、感染予防に注意しながら参加する。



【令和3年度に行っている取組等】

学外研修参加については、リモート開催を含め、情報収集している。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

東京都社協主催の介護実践事例に関する研修にリモート参加予定（11月）。
受講後は、学科内で情報共有を図る。

(3) 教育活動 作業療法学科

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

<p>1 指定規則改正後の新カリキュラムが令和2年度入学生から適用されている。 中でも大きな変更点である「診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）」に対応するため、「診療参加型臨床実習」「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」の三つの柱を組み合わせた授業展開をすること。</p> <p>2 令和元年度から本格的に取り組んでいる、ICTを活用した学生一人ひとりの学習ニーズの分析をよりブラッシュアップさせ、国家試験に向けた弱点対策等に生かすこと。</p> <p>3 新カリキュラムに対応するためにも、教員一人ひとりのさらなる「臨床力」「教育力」「地域貢献力」の向上を図ること。</p>
--

【改善方策等】

<p>課題1に対して</p> <p>臨床実習指導者ならびに教育課程編成委員会を始めとする関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携の中で次の改善方策を図る。</p>
--

- ① 臨床実習（含む、セミナー）における「診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）」を主体とした教育方法の工夫、開発をより体系的に進めること。
- ② 演習・座学授業では、問題解決型授業と科目進行型授業の手続きを分け、授業展開をする工夫、開発をより進めること。

課題2に対して

ICTを駆使した学習サポートをより積極的に図る。具体的には、次のとおりである。

- ① 学生が4年間で学ぶべき基礎知識のデータベース化を継続して行う。
- ② ①で作成したデータベースから、適切な難易度と学習範囲の課題を、定期的に各学年の学生に配信する。
- ③ ②の結果を精査分析し、学生の個別指導に役立てる。

課題3に対して

- ① 教員一人ひとりの年度ミッション（前期・後期）を明確にする。
- ② ①のミッションの進捗状況などを、毎月第1回目の学科ミーティングにてシェアリングする。



【令和3年度に行っている取組等】

方策1に対して

改善方策①②を継続して進めている。

また、①②を踏まえ、「診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）」に対応した臨床実習の評価表など使用書式一式の見直しを進めている。[新規]

方策2に対して

改善方策①②③を継続して進めている。

また、①②③を踏まえ、全学年の「解剖学」「生理学」「運動学」を中心とした基礎科目の学力向上を図っている。[新規]

方策3に対して

改善方策の①②を継続して進めている。

また、①②を踏まえ、教員個々伝える力向上のために「Iメッセージ*力」の底上げを図っている。[新規]

※「Iメッセージ」：「私（I）」を主語にして伝える表現方法。「～しなさい（命令形）」ではなく「私は～してほしい、～だと思おう」と伝えることで、一方的ではなく互いを尊重したコミュニケーションをとることができるかとされている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

新カリキュラムへの対応が完結する2024年3月（現2年生が卒業）までは、引き続き前述の3つの課題への取り組みを継続する。その上で、各方策に新規取り組みを加え、学科チームとして実施している。この取り組みを継続し、学科教育の質をさらに向上させ、より選ばれる学科へと変革を進めている。

(3) 教育活動 理学療法学科

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

早急に対応が迫られる課題は特にないと考える。引き続き能力開発の機会を継続的に与えられるべきであると思うが、社会状況の変化に寄るところが多く、努力課題とする。

学内の取り組みは、社会情勢や学内のシステムの変更により今後も調整が必要であると思われるが、柔軟に対応していく。

【改善方策等】

学内 WG の活発化などに伴い参加機会が増える見込みである。それらに対する参加環境を部署として整備し事業負担を分散・効率化することで対応する。



【令和3年度に行っている取組等】

コロナ禍における随時の対応に関しては、学生の不利益が生じないように柔軟な対応ができた。

リモート授業や実習施設の確保、緊急事態宣言における実習時期のスライド等は学生の不安が生じない範囲で対応が可能であった。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

基本的な対応は前期と同じく、柔軟に対応する。次年度の実習に関する全般的な対応（感染症予防に付随する学生のコスト増など）は、多方面に働きかけ状況を把握して行く予定である。

(3) 教育活動 看護学科

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

入学する多様な学生に対して、現状から教育方法を検討し、着実に知識・技術を身につけるための本校ならではの方策を検討する必要がある。

【改善方策等】

カリキュラム改正を機に技術教育および看護過程の教育プロセスを見直し、学生が確実に身につけられるよう体系化する。



【令和3年度に行っている取組等】

従来の課題等に今の学生の学力にそぐわないものが散見されたため、精選し重要な課題のみ学習することとした。他、看護技術演習等の指導方法も変更し、コロナ状況下でも短時間で習得できるようにしている。更に、学年末には模擬試験、看護技術練習を実施する予定であり、知識の確認を本人へのフィードバックで積み重ねをしていく。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

今年度はコロナのため遠隔授業が多く、3年生は臨地での実習が2/3しか実施できておらず知識・技術の積み重ねは浅いと考えている。10月からは対面授業であり学生の反応を確認しながら講義や学習の遅れなどがある学生は都度学習指導していく。3年生は臨地実習での学びの不足分を確認しながら国家試験対策を進めていく。

(3) 教育活動 助産学科

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

1. 授業評価制度の未整備。

【改善方策等】

1. 科目、単元ごとの評価について学校全体の取り組みの中で導入できるよう関心を寄せ、参画する。



【令和3年度に行っている取組等】

教員が授業アンケートワーキンググループの一員として参画したことで、学科からの意見を述べやすくなり、新アンケート作成の途中経過を把握することができた。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

学校全体の動きに合わせた評価制度を実質化する。

(3) 教育活動 看護学科通信課程

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	—
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	2
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

1. 基礎看護学実習Ⅰの単位取得率を上げて、2年間での卒業を目指す。
2. リモート授業の確立と効果的な学生への個別フォロー・指導の方法の検討をする。
3. 教員一人一人がスキルアップできる環境の整備を行い、校外での研修の参加を図る。
4. 教職員間での情報共有を密に行い、全員が同じ目標に向かって学生指導できる環境を確立する。

【改善方策等】

1. 基礎看護学実習Ⅰの紙上事例添削方法を検討し、スキルを身に付けられる方法を検討する。
2. ICT（リモートおよび配信）マニュアルを作成する。
3. 学会や研修への参加を促し、参加後の伝達講習を実施する。
4. 適宜打合せを行い、教職員間の情報共有を図る。



【令和3年度に行っている取組等】

1. 現在、主に課題の提出等で遅れが目立っている学生に個別対応している。

2. Zoom 授業のマニュアルを作成した。また、オンデマンド形式の配信を考えており、現在担当が準備を進めている。
3. 学会や研修を教員にあわせて紹介し、参加してもらっている。
4. 朝礼、教務会議は定期的実施しており、各打ち合わせも適宜実施している。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

1. 1年生の基礎看護学実習 I については、課題を提出している学生全てが合格している。(在学者 89 名中 88 名合格) 今後の単位取得の状況においても進級・卒業に向けてフォローしていく。
2. 各教員がそれぞれ Zoom で授業を行っている。オンデマンド配信を実施までもっていきけるようにしたい。
3. 今後も研修等があれば対象者に声をかけ、参加を促していく。また、参加後に教務会議内で簡単な報告はあるが、伝達講習はできていないので、今後予定していく。
4. 継続して定期的な朝礼、教務会議、打合せ等を継続していく。

(3) 教育活動 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

経験の浅い教員が多いため知識・技術・資質の向上について更なる努力が必要。
夜間部が完成年度を迎え、3学年×2（昼夜）となり、教員側も対応が立て込んでしまっている。
学生に対して満足な教育・支援を行うために更なる人材の確保が必要。

【改善方策等】

関連諸機関の研修に参加し自分の授業の振り返りを行い、学生に還元する。
また、新たな人材の登用はもちろん、安定するまでは経験の浅い教員に対し経験の長い教員がカバーすることで対応していく。



【令和3年度に行っている取組等】

法人全体の研修会に参加することで、専門性を高め自分自身の糧とし、学生への還元に繋げている。
また、教員一人一人が研修会に対する意欲を持ち、積極的に参加できた。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

教員も確保され、学生に満足な教育・支援を行う準備は整っている。今後は各教員が学科内での研修及び経験を積んでいくことが必要。

しかし、引き続き法人全体で企画している教員同士の研究授業（授業見学）や研修等には参加予定があるものの、学科独自の授業見学や研修会は実施が難しい状況である。

(4) 学修成果 介護福祉学科

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

卒業生に対する社会的な活躍、評価、キャリア形成への効果の把握をおこなう。

【改善方策等】

卒業生の就職先での情報収集。(就職先における評価等を聞く。)



【令和3年度に行っている取組等】

卒業生在籍時に組んでいたグループライン等にて、近況報告等に関するお願いの通知。
実習施設へ就職した卒業生に関しては、実習巡回時に近況を訊ねている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

概ね回答あり。卒業生の状況が例年よりも明確になっている。
回答がない、または音信不通の卒業生に対しては、施設への問い合わせ等により、状況把握に努める。

(4) 学修成果 作業療法学科

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	2
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

- 1 資格取得、就職はもちろんのこと、日常的な学生一人ひとりの個別サポートをより徹底すること。
- 2 ICTをより活用した国家試験対策を行うこと。特に以下3つを関連させて分析していく。
 - ①専門基礎（特に解剖学・運動学・生理学）の見直し
 - ②過年度の国家試験の傾向と合格率
 - ③外部模試の結果
- 3 退学可能性などの高リスク学生に対し早期の介入をすること。

【改善方策等】

課題1に対して

昨年度に続いて、就職に向けた相談・支援・指導は、学生個々のストレングスを活かすことを軸に、学生本人・学生サポートセンター・学科教員との連携の中で目標の達成をより図る。特に、学生と希望する就職先とのマッチングに対し、より丁寧なフィードバックを含めた個別サポートを行う（試験対策、模擬面接練習等）。

課題2に対して

昨年度に続いて、作業療法士国家資格取得率向上に向け、1年次から4年次まで個別ならびにグループ等を活用しての補習授業を継続する。また、ICTをより活用した国家試験対策を行う。具体的には、対策問題の配信を定期的に行い、学習進捗状況の分析と課題の明確化に活用する。同時に、4年生一人ひとりに国試担当サポート教員を配置し、国試対策個別面談と、小グループでの動機づけ等を定期的実施する。

課題3に対して

集中力の低下や生活リズムなどの乱れ、成績の伸び悩み、経済的困難さ（捉えづらい）などをリスク要因と捉え、リスク要因の高い学生に対して、オーダーメイド式のサポート内容（各教員役割等）を明確にして取り組むこととする。

経済的困難がある学生に対しては、学生支援機構等メジャーな奨学金の他にも、活用できる奨学金や給付金を学科でリサーチし、提示していきたい。



【令和3年度に行っている取組等】

方策1に対して

改善方策1を継続して進めている。その上で、学生のニーズに応じ、就職試験対策や模擬面接等をより早い段階から複数教員で対応することを始めた。それにより、「就職先とのマッチングの向上（広義の就職率の向上）」はもちろんのこと「退学率の低減」も図っている。

方策2、3に対して

改善方策2、3をそれぞれ継続して進めている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

引き続き、前述の3つの課題への取り組みを継続している。理由は、学修成果を高めるその基本となる取り組みだからである。

また、(新型コロナウイルス感染症対策から休止していた)卒業生との交流と生涯学習の機会となる「マロニエ作業療法研究会」を、12月からインターネット(Zoom)を活用し再開することとなった。この取り組みを継続し、学科教育の質をさらに向上させ、より選ばれる学科へと変革を進めている。

(4) 学修成果 理学療法学科

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

新卒の合格率を上げるためには、短期的ではなく長期的な視点での対応が必要である。

【改善方策等】

基礎知識の重要性は過去にも言われてきたが、明確に課題としてのフォーカスをあて、修得に取り組むスケジュールを計画する。そのうえで卒業試験の水準を上げ、それに到達しなかった学生については、ストレート卒業率よりも国家試験新卒合格率を見据えて留年（あるいは卒業延期）を選択する。



【令和3年度に行っている取組等】

基礎的な科目に対してのポイントをはっきりと伝達する。範囲が広い科目に対しての学習ポイントを焦点化することで、学習に対する具体的な行動に結びつけることができている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

主要な基礎科目や、習得困難科目への効果が表れている。後期も継続的に実施する予定。

(4) 学修成果 看護学科

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	2
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

- ① 資格取得に関して、本校の学生に合った段階的な計画の立案と実施。
- ② 情報共有に基づく、一人ひとりの学生に応じた目標達成支援の強化。
- ③ 卒業後の就業において、在学中の教育方法が必要に足りるものか検証する必要がある。

【改善方策等】

- ① 国家試験対策の従来の方法の効果検証および見直し。
- ② 情報共有に基づく、学生の目標達成支援に向けた体制の再構築。注視する必要がある学生状況に関しては1回/月の教務会議で状況を報告して教員間で把握し、継続支援を実施する。
- ③ 卒業後の就職先からの情報収集についての検討。



【令和3年度に行っている取組等】

- ① 国家試験対策として成績低迷者への担当制による学習指導、時間の確保、問題解きなおし、記憶の定着を繰り返し行っている。
- ② 支援が必要な学生は担任が都度面接し、アドバイスや必要に応じて学生相談室のカウンセラーにつないでいる。
- ③ 実習施設からの情報は得られるが、県外等に就職した学生は得にくい。得たとしても他の卒業生からの情報によるものが多い。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- ①に関しては夏休みから始めており、受験の意識向上になっている。まだ、途中だが意欲はさらに高くなるのではないかと考えている。
- ②に関しては授業の都合で学生は放課後しか時間が取れず、カウンセリングの時間の予約・確保が難しいときがあり、学生サポートセンターと相談しながら工夫する必要がある。

(4) 学修成果 助産学科

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

卒後の就業に足る教育内容であるかの検証。

【改善方策等】

就業先への調査などの検討。



【令和3年度に行っている取組等】

教育の質（成果）評価において卒業生の就業先での勤務状況の把握が必要であることは確認した。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

学校全体の取り組みを整備しながら学科でも実施の方向にしたい。

(4) 学修成果 看護学科通信課程

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	資格取得率の向上が図られているか	2
2	退学率の低減が図られているか	4
3	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
4	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

1. 国家試験合格率の全国平均より高くするための国家試験対策を検討すること。
合格率を基に学習課題の内容、提示方法変更についての分析と今後学習課題の内容・提示方法のブラッシュアップを図る。
2. 退学者・休学者を最小限にとどめること。

【改善方策等】

1. 入学時の学力を精査し、国家試験までの学力向上を図る。
模擬試験の結果と学習課題の内容の関係性を検討し、学習課題の内容を検討する。
教員向けの国家試験対策のセミナー等に積極的に参加して情報を収集し、学生と教育体制の特性を考慮して教員間で国家試験対策を立案し、実施する。
2. 学生の学習状況や生活状況を把握し、学生個人にあった学習プログラムの検討を行い、学習が継続できるように支援する。



【令和3年度に行っている取組等】

1. 教員用国試対策の研修がある場合は、教員に受講してもらっている。
業者の国試対策ゼミ、参考書の定期的な確認、模擬試験とその振り返りを実施している。
少人数制のグループを作成し、各教員が担当の学生とコンタクトをとっている。
2. 課題提出が遅れている学生や連絡がなかなか取れない学生は、担任からアプローチしている。
その際、学生本人と相談し、学生のペースに合わせて個別のスケジュールを立案している。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

1. 教員が研修に参加した後の伝達講習ができていないので、計画していきたい。
現状として、授業や模擬試験が会場でできていない（リモート授業、自宅受験）ため、学生の本来の力を図ることができていない。後期の模擬試験は、本番の状況に慣れるという意味も含めて、会場受験する方向で考えている。
学生にオンデマンドで補講を配信しようと考えており、現在担当が計画を立てている。今年度中に実施していきたい。

2. 1年生が入学して半年が過ぎたところで、家庭や仕事等と学業の両立を困難に感じている学生から退学・休学の相談が来るようになった。その際は担任を中心に早期に面談したり、相談を受けたりしている。

(4) 学修成果 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

資格取得に関して、国家試験のための組織立った対策計画・実施が不足している。

【改善方策等】

国家試験対策は、本番の日程が比較的遅いこともあり、3年生の夏休み頃から本格的に実施していたが、計画を立てて3年生の春から行う。

現在模試の成績によって少人数でグループ分けし、担当教員をつけている。また、学生相互で学び合う機会をつくることも検討中。



【令和3年度に行っている取組等】

国家試験対策に関しては、春から徐々に始めており、臨床実習が終了後に本格化する予定。現在は、帰校日を利用して国試対策をしている。夏休みの模試の結果も踏まえて高みを目指す指導に切り替えていく。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

家庭学習や授業以外での課題学習が例年より功を奏している状況。資格取得に向けて学生の更なる意識の向上と、学習を継続していく重要性を理解できるような指導を行う。

(5) 学生支援

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	3

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

【課題】

学生相談室の活用に関しては、相談者が増加し軌道に乗りつつあるが、さらに学生および教職員への周知および常時相談に応じている職員のカウンセリングのスキルの向上が必要である。
コロナ禍において、例年出来ている学生支援が実施出来なかった。

【改善方策等】

今後は教職員のカウンセリングのスキル向上にむけて研修会や勉強会を継続的に実施する。また、多様化する相談内容の解決にむけて、組織体制を整え対応のためのマニュアル等を作成していく。
コロナ禍においても、よりよい学生支援が実施できる様に社会情勢をみて方策を講じる。



【令和3年度に行っている取組等】

- ・学生相談室に関しては、入学時のオリエンテーションで案内すると共に HR にて専任のカウンセラーを紹介、さらに校内に掲示等を増加して活用を促している。また、リモートでの相談も対応できるように整備した。また、後期で教職員のカウンセリングスキル向上のための研修会を実施する予定。
- ・経済的な支援の取組みでは、昨年度より引続き高等教育の修学支援新制度の認定校となり、日本学生支援機構の給付奨学金対象者に対して授業料・入学金の減免を行っている。また、コロナ禍での家計急変時など学生の状況に応じて、学費の納入方法・時期に柔軟に対応するとともに、民間の給付型奨学金等も積極的に紹介している。
- ・保護者会として後援会を組織している。入学後に学科別説明会を実施し学校の概況等に理解を求めると共に年1回総会、さらに学科別懇談会、個別面談等を実施して教育活動等の情報提供を行い、連携をとっている。今年度は実施にあたり、リモートでの対応等、参加への配慮をしている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

学生相談室の活用に関しては、利用者数とリピート率は増加傾向にあるが、まだまだ周知は必要である。今後は専任のカウンセラーに相談する心理的ハードルを下げることも課題であるため、教務と連携を強化していく。

(6) 教育環境

令和年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

4について、危機管理マニュアル等を整備する事はできたが、今回のもので完成とはせず、今後も内容をアップデートしていく必要があると考えている。

【改善方策等】

4について、危機管理マニュアル等のアップデートの為、学校生活における危険や日々変化する社会的危機等の情報収集を怠らないものとする。



【令和3年度に行っている取組等】

危機管理マニュアル等については、現状を見ながら必要に応じてアップデートをしている。
今年度は、備品の管理台帳整備作成を行うため、各号館毎に調査を始めた。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

備品の管理台帳作成を行い、備品管理を行うことで、使用状況や在庫数、故障等を把握し学生や教職員が使用しやすい環境をつくる。

(7) 学生の受入れ募集

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
2	学生募集活動は、適切かつ効果的に行われているか	3
3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
4	学納金は妥当なものとなっているか	4
5	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
6	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

3. オンライン募集活動の更なる強化。

【改善方策等】

3. コロナ渦の中で、オンライン動画コンテンツの配信を行い、情報発信し募集活動に繋げていく。

・ SNS (インスタグラム・フェイスブック・ツイッター) にて情報発信を行っている。

インスタグラムのフォロワー数は伸びつつあるが、フェイスブック・ツイッターはフォロワー数が伸び悩んでいる為、中身の見直しが必要である。



【令和3年度に行っている取組等】

・ 4/24 に Web オープンキャンパスを実施。

・ 「介護福祉学科の一日」の動画を作成し、YouTube にUP。

・ SNS では、教員紹介コンテンツを作成しスペシャルオープンキャンパスに向けて発信。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

今年度、前半は動画コンテンツの発信が少なかったため、後期は動画コンテンツを3本発信予定となっている。SNS は2年生向けに授業風景を強化して発信していきたい。

(8) 財務

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

学納金の増減で年度によって財務状況が不安定にならないよう学納金の管理を徹底し、一定水準の学納金の収入確保を法人全体として対策を今後も継続して考えていく。

【改善方策等】

学納金収入の安定
経費削減を引き続き実施



【令和3年度に行っている取組等】

経費削減を継続しながらも、維持や修繕が必要な場所には学習環境整備のため費用を投じている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

今年度も前年度同様、新入生の一定数の確保と在校生の退学率等を抑えながら運営していきたい。

(9) 法令等の遵守

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

教職員全体への学校評価の浸透・理解を含む組織体制については、継続課題となっている。

【改善方策等】

学校評価のシステムと実施意義を周知するための資料作り、並びに組織体制整備のための働きかけを行う。併せて各学科部署が活用できる評価活動とするため、評価項目の再構築も検討する。



【令和3年度に行っている取組等】

- ・学校評価（主に自己評価）についてプレゼン資料を作成した。また、一部教員に概要について説明した。
- ・学校評価や職業実践専門課程など、当法人に関わる認定諸制度の要綱改訂が令和4年度に予定されているため、情報収集や現状分析を行っている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- ・組織体制整備については中長期目標として継続していく。
- ・自己評価は例年通りに実施し、ホームページの情報公開ページにて公開している。
- ・評価項目の再構築については、上述の令和4年度の改訂内容を踏まえるため、実際の再構築は令和4年度後期を目途に行っていきたい。
- ・令和4年度より看護系のカリキュラム変更が順次あるため、対応していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

令和2年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

学生のボランティア活動などの社会活動について、学校として積極的に奨励、支援しているが、コロナ禍で活動が制限されてしまった。

【改善方策等】

今後は、社会情勢をみて学生ボランティア活動を組織的に支援していく。また、活動実績を把握するとともに結果を学内で共有できるように体制を整えていく。



【令和3年度に行っている取組等】

・学生のボランティア活動は、例年地域社会からの依頼が多いが、今年はコロナ禍で依頼が皆無であったため、学校として積極的に推進すべく活動の場の確保に努めた。また、学校周辺の清掃ボランティアを継続的に行っており、その様子を SNS 等で情報発信している。

・厚生労働省の雇用促進事業である一般教育訓練や専門実践教育訓練、委託訓練等を活用する社会人経験者の学生へのリカレント教育に継続して取り組んでいる。

・本校では、職域での新型コロナワクチン接種を開始するという政府方針に沿って、地域の負担を軽減し、接種の加速化を図るため、職域接種の実施に踏み切った。接種対象者は学生・教職員・地域住民とした。栃木校（マロニエ）を会場として本校教職員が中心となり、地域医師・看護師の協力を得て実施することで地域貢献に努め、また本校の教職員や施設の姿を知ってもらう機会とした。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

職業人教育を通じて社会を共に築くためには社会や地域と連携した活動は重要である。また、学生のボランティア活動も、活動を通して様々な学びを得ることができ、大きな教育効果をもつものであることから、今後も社会情勢をみて積極的に奨励し取り組んでいく。